

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	早稲田大学	整理番号	1-2-041
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	実践的知の確立を目指す現代型教養教育 —総合大学からの試み—		
申請単位	大学全体		
申請担当者	白井 克彦		
<p>(取組の概要)</p> <p>早稲田大学では、「新たな知の枠組」の創造をめざし、実践的で時代性を備えた新しい教養教育を推進するために、2000年12月オープン教育センターを創設した。そこでは、早稲田大学の強みである規模の大きさや学問分野の幅広さ、学内外の豊富な人材をいかした教育を積極的に推進するとともに、その一方で従来の教育の枠を打ち破る斬新でユニークな取組を展開している。2500科目におよぶ「オープン科目」は、全学部の学生に加え、他大学生や高校生など多様な背景を持つものが共に切磋琢磨する学習環境となっている。また、大学教育の常識を超え、①学生4人までの英語教育「Tutorial English」や20人までの学部横断ゼミの集合体「テーマカレッジ」などの徹底した少人数教育、②現代社会の課題を生きた教材とし、社会の第一線で活躍する人々と議論を闘わせる「大隈塾」などの社会連携科目、③「インターンシップ」や「ボランティア」の実習教育など、知的刺激に満ちた取組を次々と展開している。履修した単位は卒業必要単位となり、年間約40,000人が履修している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>全学が一体となって学部教育を担う「オープン教育センター」を創設し、教養教育の改革に大胆に取り組んでいる事例です。新入生を対象とし、教員の自発的なテーマ設定のもとで、学部横断的に開設されるゼミ「テーマカレッジ」のアイデアはユニークなものであり、また、4人の学生が1人のチューターから実践的英語を学べる「Tutorial English」も、大規模大学における徹底した少人数教育として革命的な取組とすることができます。多くの論客たちを講師に招いての「大隈塾」など、社会との連携を意識した科目の開設によって「実践知」の修得を目指す教育展開は、他大学にとっても大いに参考になるものと評価されました。なお、運営体制の面では、センターに専任教員を置かず全学出動型としたり、英語教育のチューターをすべてアウトソーシングでまかなうなど、高度なマネジメントを要する点もありますが、新しい試みとして多くの大学に刺激を与える取組と思われます。</p>			